国際地理学連合（IGU）

International Geographical Union

https://igu-online.org/

2024年11月

日本学術会議　地球惑星科学委員会　IGU分科会

IGU
UGI

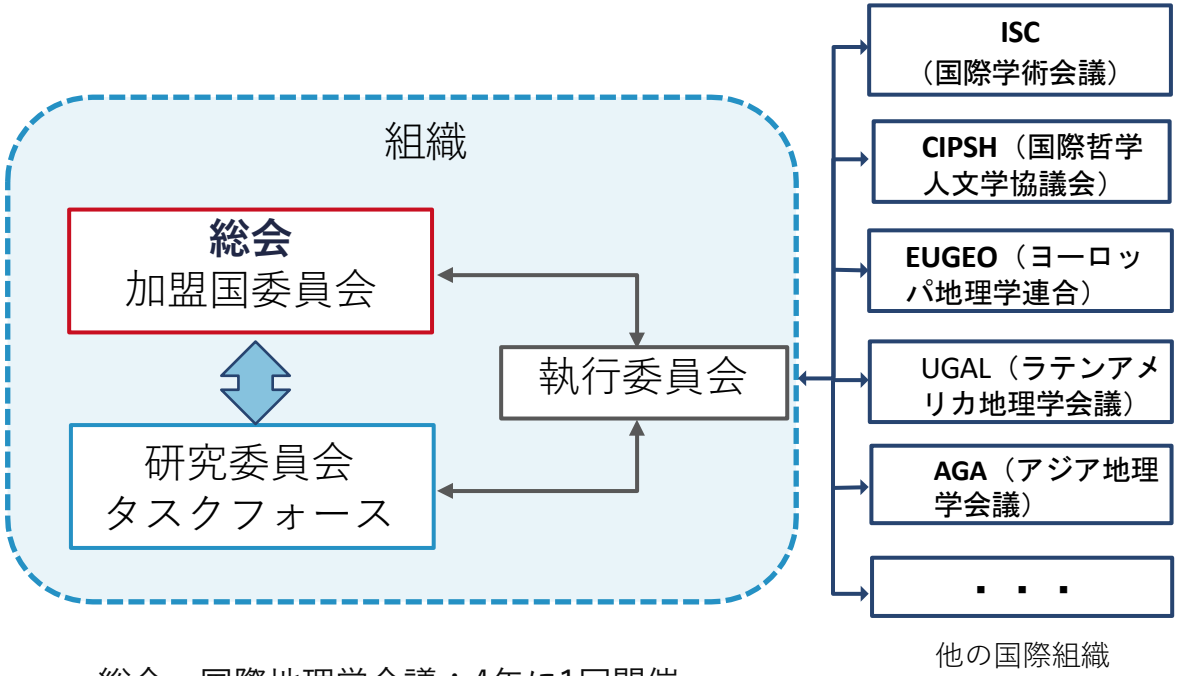
UGI-IGU
PARIS 2022
LE TEMPS DES GÉOGRAPHES
TIME FOR GEOGRAPHERS
The Centennial Congress

35TH INTERNATIONAL GEOGRAPHICAL CONGRESS 2024
24-30 August | Dublin, Ireland
Home
Programme
Call for Participation
Registration
Accommodation
Sponsorship & Exhibition
Olympiad
General Information
EN
FR
Celebrating a world of difference
35TH INTERNATIONAL GEOGRAPHICAL CONGRESS 2024
24-30 August | Dublin, Ireland
IGU
UGI
Geographical Society of Ireland
An Cumann Tíreolaíochta na hÉireann
Dublin City University (DCU)

国際連携による「持続性の科学」の推進

IGUの目的

1)地理的問題の研究促進、2)国際協力を必要とする地理的研究促進、3)国際機関の活動への参加・協力、
4)加盟国内および加盟国間での地理データ・知識の共有促進、5)国際地理学研究に関する会合の促進、
6) 地理学の研究と応用を進めるための国際協力への参加、
7) 政策インターフェースを促進し、命名法や記号の国際標準化や互換性を促進。



- 総会・国際地理学会議：4年に1回開催
- 中間年に総会なしの国際地理学会議を開催
- 43の研究委員会と3つのタスクフォースがあり、それぞれが年2回程度の会議や研究集会を開催

活動戦略

気候変動や社会的不平等に関する世界的な議論における主要な科学としての地理学の役割と活動の推進

設立経緯・日本学術会議の関わり

1922年 IGU創設 初代副会長: 山崎直方
1957年 東京にて国際地理学会議（RC）※
1980年 東京にて国際地理学会議（IGC）※
2013年 京都にて国際地理学会議（RC）※
（※IGUと日本学術会議の共催）
2016-2020年 会長: 氷見山幸夫
（日本学術会議元会員）

地球的課題に応える研究委員会を構成

IGUの研究委員会（コミッション）（太字は次頁以降に概要。下線は日本の研究者が近年運営委員長や委員を務める）

C20.01 アフリカ研究 SDGs 10
C20.02 農業地理学と土地工学 SDGs 2
C20.03 応用地理学 SDGs 8
C20.04 生物地理学と生物多様性 SDGs 15
C20.05 気候学 SDGs 13
C20.06 沿岸域システム SDGs 14
C20.07 寒冷地域と高山地域 SDGs 15
C20.08 地理学における文化的アプローチ SDGs 16
C20.09 経済空間のダイナミクス SDGs 9
C20.10 環境進化 SDGs 15
C20.11 ジェンダーと地理学－ケア、繋がり、変化 SDGs 5
C20.12 地理教育 SDGs 4
C20.13 地理情報科学 SDGs 9
C20.14 フューチャー・アースのための地理学－持続可能な統合システム SDGs 17
C20.15 ガバナンスの地理学 SDGs 11
C20.16 情報・イノベーション・技術の地理学 SDGs 9
C20.17 ツーリズム・レジャー・グローバル変化の地理学 SDGs 8
C20.18 地球遺産 SDGs 4
C20.19 地形学と社会 SDGs 11
C20.20 グローバル変化と人のモビリティ SDGs 9
C20.21 グローバル理解 SDGs 12
C20.22 ハザードとリスク SDGs 11
C20.23 健康と環境 SDGs 3
C20.24 地理学史 SDGs 17
C20.25 島嶼 SDGs 14
C20.26 カルスト SDGs 15
C20.27 土地劣化と砂漠化 SDGs 15
C20.28 土地景観分析と土地景観計画 SDGs 15
C20.29 土地利用・土地被覆変化 SDGs 15
C20.30 ラテンアメリカ ・ カリブ海地域研究 SDGs 10
C20.31 地域開発 SDGs 1
C20.32 縁辺化・グローバル化と地域の対応 SDGs 10
C20.33 地中海地域 SDGs 17
C20.34 地理的システムのモデル化 SDGs 10
C20.35 山岳地域研究 SDGs 15
C20.36 政治地理学 SDGs 16
C20.37 人口地理学 SDGs 8
C20.38 地理学の研究手法 SDGs 17
C20.39 農村システムの持続性 SDGs 1
C20.40 地名学（国際地図学連合と共同） SDGs 11
C20.41 交通と地理学 SDGs 11
C20.42 都市地理－シティとアーバンの再考、グローバル・ローカル SDGs 11
C20.43 水の持続可能性 SDGs 6
C20.44 非公式性、社会の変化と発展 SDGs 17
C20.45 地理オリンピック SDGs 4
C20.46 若手地理学者 SDGs 17
C20.47 シルクロード文明と環境 SDGs 11

環境変動に対応する社会の創造

研究委員会の活動事例①

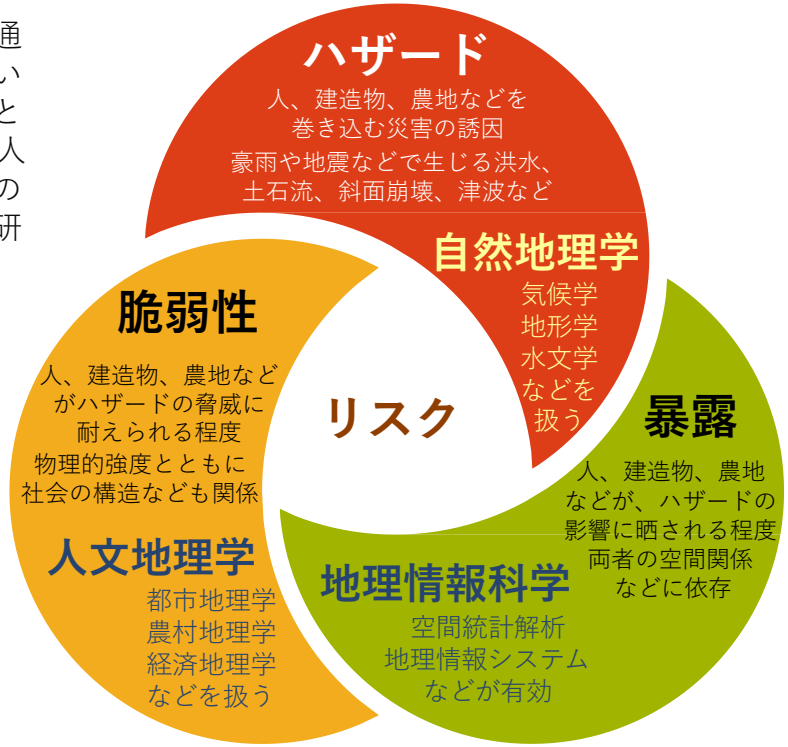
交通問題の解明と解決

世界の様々な国・地域における、交通が関わる社会・経済・環境問題について、地理学の視点から、原因の解明と問題解決を目指して活動。11か国12人の運営メンバーを中心に、数十人超の交通地理学者が議論し協力しながら研究を推進。 https://igu-transport.org/

近年の交通地理学の主要５テーマ

C20.41 交通と地理学

災害リスクの学際研究



災害のリスク(危険度)と、それを規定するハザード・脆弱性・暴露の３要因を研究。
３要因は自然地理学・人文地理学・地理情報科学と対応するため、総合の科学としての地理学を象徴。2008年以降、委員長と事務局長を日本人が務めている。

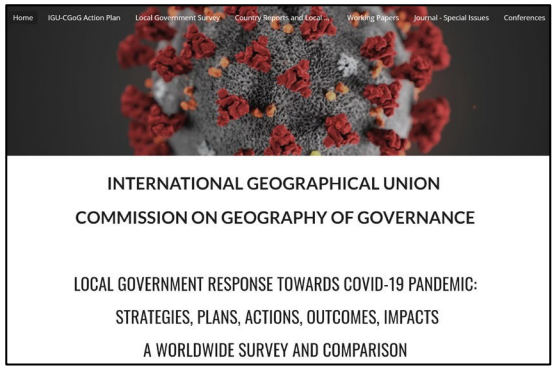
C20.22 ハザードとリスク

感染症対策の国際比較

多様な条件下における都市・地域・地方のガバナンス・公共サービス・行政組織・領域管理の特徴やそれらの地域への影響を広く探究。

テーマ例：民主化、EU、気候変動、人口移動、行財政改革、過疎化

新型コロナウイルス感染症への対応
感染拡大に対する、各国の地方自治体の政策・戦略・計画に関する情報の収集・分析。
国際会議の特設セッション、国際誌特集号などを通じて議論を展開↓



https://sites.google.com/view/igucgog-covid19/

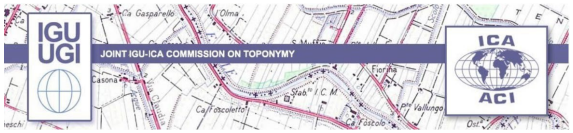
C20.15 ガバナンスの地理学

持続可能性の包括的理解と革新的思考

研究委員会の活動事例②

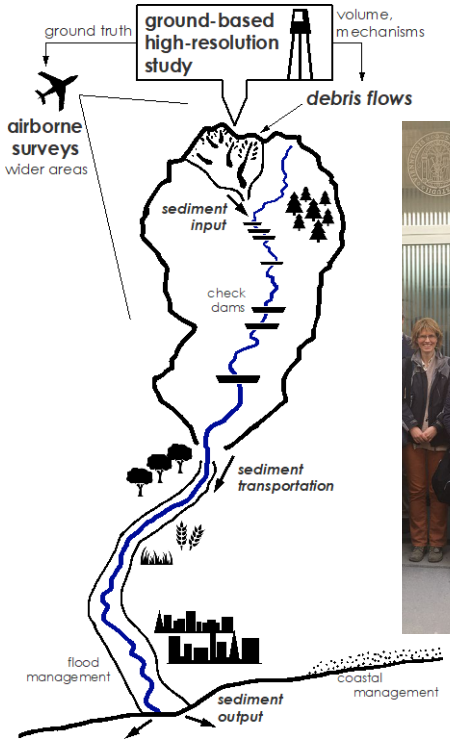
文化遺産としての地名

- IGU地名委員会では、地理学的・地図学的観点から地名学を国際的に推進している。主なテーマは、言語文化遺産としての地名、マイノリティの地名、減災における地名、デジタル化と地名、地名の歴史的変遷、多言語地名など。
- 近年では、国連地名専門家グループ(**UNGEGN**)に協力して、地名標準化に関する活動を積極的に支援している。**UNGEGN**は、各地の言語・伝統を反映した地名を尊重し、その承認を各国に推奨したうえで、国際的にそれらの地名を用いるための表記基準等を提案している。



C20.40 地名学

地形学と社会



地形の物理的側面だけでなく、人間社会との関連も包括的に含めた研究・教育・アウトリーチ活動を推進。2018年からは国際地形学会IAGと連携し、Geomorphology and Society: Past, Present and Futureが発足。

C20.19 地形学と社会－過去、現在、未来

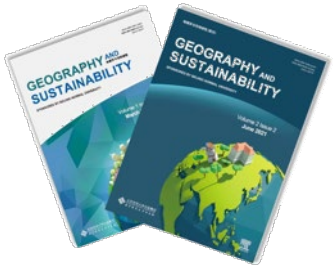
フューチャー・アースの推進

- 自然地理学、人文地理学、生態学、水文学、大気科学、気候学、社会科学等の分野間連携と統合を進め、人間ー地球システムの持続可能性に関する、より広範な分析と革新的な思考を促進することを目的として、2017年10月に研究委員会設立。
- 世界の地理学者間のコミュニケーションプラットフォームを提供。

【2020～24年の主な活動】

- 機関誌 *Geography and Sustainability* の推進
- 国際会議における企画セッションの定期的開催
- 主要学術雑誌における特集号の企画
- 若者研究者の活動支援
- ワークショップ・トレーニングセミナーの開催

IGU-GFE



C20.14 フューチャー・アースのための地理学

文理融合科学にもとづく教育と発信

深刻化・複雑化した様々な地球規模の問題を抱える現代社会において持続的未来を考えるためには、文系・理系といった学問の垣根を越えた総合的な視点が欠かせない。本来的に文理の両面を包含し，環境・災害・社会に関する諸課題に総合的に取り組む地理学の研究成果を教育活動、シンポジウムやイベントを通じて広く発信している。

国際地理オリンピック

- 19歳未満の出場選手が「地理総合力」を競う大会。1994年から国際地理学会と同時に開催。地理への関心を広く喚起。
- 国際地理オリンピック日本委員会は日本学術会議IGU分科会で構成。日本は2007年大会から毎回参加。

若手研究者育成

- 若手研究表彰など、大学生や大学院生を含む若手の研究者の支援と育成。
- 国際地理学会議の開催時には20～30名の若手に参加旅費を補助。

シンポジウム開催

日本学術会議 IGU分科会主催によるシンポジウム『文理融合科学から持続可能な未来を考える』を開催(2018年4月)。地理学における研究事例と世界への発信について幅広く議論。

地理学普及イベント開催

欧州地理学協議会(EUGEO)とIGUの共催により2017年から毎年開催。年に１回夜間に世界各地でおこなわれるイベント「**GeoNight**」を通じて、地理学の成果を一般社会に普及。